
恐怖の花を咲かせましょう

滾

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恐怖の花を咲かせましょう

【Nコード】

N1775B

【作者名】

滾

【あらすじ】

植物と恐怖の相違点云々共通点云々のお話。

（前書き）

夜に読むと良いと思います。
特に寝る前とか。ね。

唐突だけどさ、俺は恐怖と花って似てると思うのよ。うん。

いや、花、っていうか、植物、って言った方がいいかな。

と言っても、俺が言ってるのは一般的な“植物”であって、細かいところまであだこうだ言われたらソレは知らねえ。

ともかく、俺は一般的な“植物”と“恐怖”は似てると思うんだよ。じゃあ、恐怖で言う最高の苗床、って何だと思う？

うん。

そうだな。“暗闇”だな。

暗闇、ってのは、“恐怖”っていう花を育てるのには最適な苗床だ。この苗床に更に栄養素の高い土を混ぜると、更に良い感じになる。じゃあ何が最高なのか。

それは、“暗闇”の中で一人で身動きが取れず、更に声も出せずにいる”

これが最高だな。

けどまあ、こんな状況に陥るなんて、滅多な事じゃあない。だからそれに似た、“寝室で一人で寝る時”を土にしようか。試しにな。

思い浮かべてみるといい。布団に入って、電気を消す。全部消す人、小さい明かりをつけて寝る人、音楽を聴く人。様々だと思う。

どんな場合でも良い。思い浮かべてみな。

さあ、そこに“種”を植え付ける。

はつきり言って、“種”なんか何でも良い。

例えば、昔見た心靈番組の一コマ。もしくは周りから聞こえた些細な物音。怖いと思えりや何でも良い。

それらがふと思いつかれた、聞こえてしまった瞬間、大きかれ小さかれ“種”が苗床に植え付けられちまう。

さあ、こっから種からどんな芽が出るかどうかはアンタしだい。

咲くか、枯れるか。

ここで言う“水”は主に視覚やら聴覚、だ。周りに見えてしまうもの。もしくは、見えていないのに“そうだ”と思ってしまうもの。それが水になる。

ふと見た先の布団の皺しわが、人の顔に見える。真つ暗な部屋なのに、「あれ？今白い何かが横切った？」とか思っちゃう。

それで、十分種は芽を出すだろう。

芽が出たら、後は簡単だ。

その芽はどんどんどんどん、勝手に大きくなっていく。

何か部屋に居る？あ、今音が……。あれ、何か今見えた……。

何か、何か……。来る……。？何？何……？

疑問が恐怖となってどんどん膨れ上がる。こうなると、もう布団に潜ろうが音楽を聴いてようが関係ない。

布団の奥から顔がのぞいてないか？

今、聴いてた音楽に人の声が紛れてなかったか？

気を紛らわそうとしている事が、どんどん裏目になっちまう。

こうなったらアンタ、もう起き上がるのも難しいよ。

勢いつけて思いっきり寝返るか、懇親の力で電気の紐引つ張るか。

ただ寝返る時、寝返った先に顔が合ったらどうしよう、とか、電気の紐引つ張ろうとして布団から手を出した瞬間手を掴まれたらどうしよう、とか、考えたら泥沼。

どんどん蕾が開いちまう。

一回完璧に花が咲いちまったら、そうそう簡単に散ることはない。

体を動かす事さえ抑えられて、どんどん花が大きくなっていく。

花が咲ききったら、皆がよく知っている現象が起きることがある。

うん、そう。“金縛り”だ。

金縛りの原因の一つに、“思い込み”が挙げられるのはそういう事。まあ、体外は体を動かすなり声を出してみるなりするんだらうけどな。

ただ、最初に挙げた“暗闇に一人で身動きが取れず、更に声も出せ

ずにいる”っていう苗床がベースだったとしたら、もう駄目。
駄目になるまで花が大きくなる。

駄目、つてのは、つまり脳が人間の電源をオフにするまで、つて事だ。

人間、恐怖が最高まで達すると、脳が勝手に電源を落としちゃう。
よくて発狂するかだ。良くて、な。

体外人間つてのは、恐怖から逃れたい時は体を動かす。

もしくは体を庇うような体勢をとる、声を上げる。が、身動きが取れなくちゃ、んな事は出来ない。

身を庇うことも出来ず、^{あがな}贖う為の声も出すことが出来ない。

つまりは恐怖を全面的に受け入れちゃってる訳だ。

と、なると、そりゃ発狂もするだろ。

脳だつてスイッチ切りたくなるだろ。

怖いんだから。

お化け屋敷で「キヤーツ！」とか聞こえるのは全然正常。

叫んで、気を紛らわしてるわけだから。

だから叫べる分には叫べ。脳がスイッチ消しちまう前に。

ところで、俺は恐怖を植物に例えた。

植物、つてのは、肥料をやると普通より良く成長するよな？

この場合の“肥料”つてのは、何だと思う？

うん。

もう解っている奴も居るみたいだな。

そうだ。この“話”だよ。

苗床が出来たら、この話を思い出しな。普通より、テンポ良く花が咲くだろう。前もってシナリオが出来てるわけだからな。

そして、でっかいでっかい花になるだろうぜ。

（後書き）

作中では失礼な口調です。すみません。
ともあれ、楽しんで、いただけませんかね、やっぱ。
良い夢を。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1775b/>

恐怖の花を咲かせましょう

2010年10月31日05時02分発行